

# 水田たより 7月号

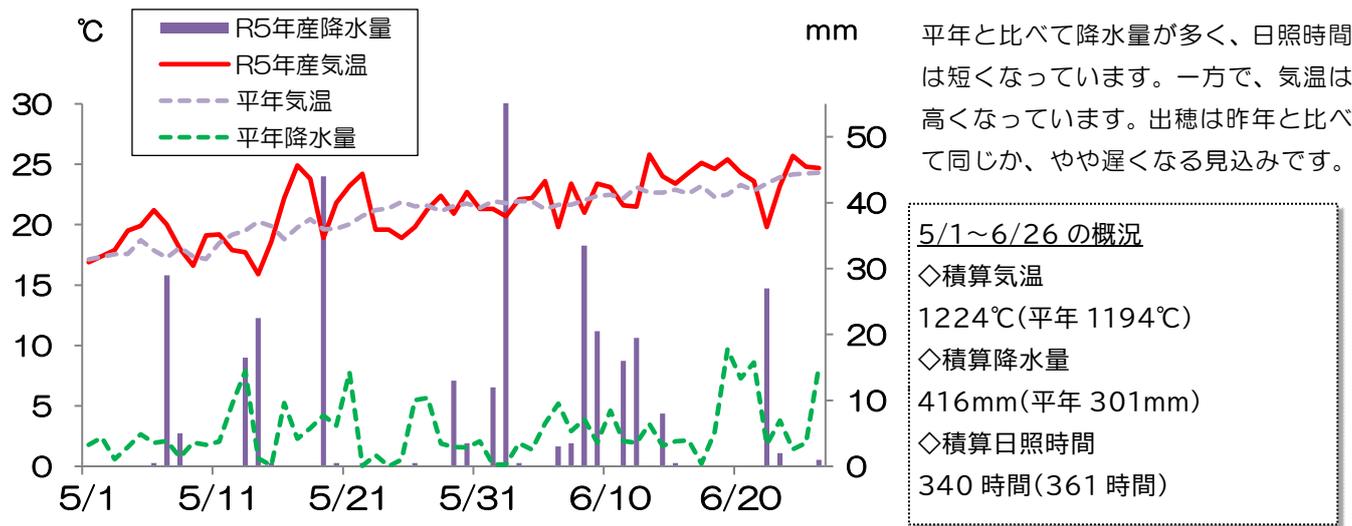
令和5年7月3日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

## 水稲 気象概況と出穂予測

◇気象概況（6月26日時点）



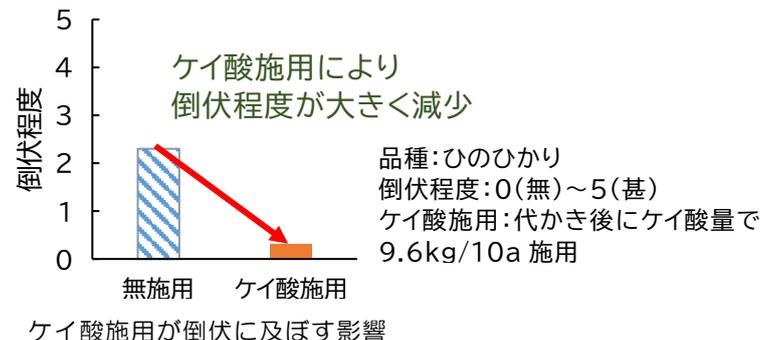
◇出穂予測（6月26日時点）

品種	移植日	出穂期見込み（前年比）
あきたこまち（長島）	4月7日	7月8日（4日遅い）
コシヒカリ（桑名）	4月25日	7月22日（前年並み）

## 水稲 倒伏対策

○今年は梅雨入りが早く、**日照不足**となることが予想されます。また、例年よりも気温が高くなっています。そのため水稲が徒長し、収穫時期に**倒伏する**恐れがあります。

○ケイ酸資材は植物体を頑丈にする効果があります。植物体が頑丈になることで**病害や倒伏を軽減**させることができます。



**エルニーニョ現象**が発生していると報告されています(気象庁 エルニーニョ監視速報 No.369)。そのため、**今後も日照不足**となることが予想されます。日照不足では**いもち病**の発生の恐れがありますが、ケイ酸資材は**いもち病の発生**の軽減にも効果があります。

「水稲直播におけるケイ酸施用が倒伏、食味に及ぼす影響」(2000)を基に作成

## 水稲

### 欠かせない！イネカメムシとその他斑点米カメムシ類の防除対策

○イネカメムシは県内各地で2010年代から発生がみられ、発生量は増加傾向にあります。管内においても、イネカメムシの加害によって不稔症状と斑点米が発生し減収被害が生じています。その他斑点米カメムシ類についても発生量が多い状態が続いています。



イネカメムシ

○今年度もカメムシの発生動向を把握するためすくいとり調査を実施しています。

令和5年6月上中旬時点の畦畔雑草で、クモヘリカメムシやホソハリカメムシ、小型カメムシを確認しています。今後増加が予想されるため、適期防除を行いましょう！  
大型のカメムシは移動性が高いため、地域一斉に対策を行うと効果的です。



クモヘリカメムシ

(1)畦畔イネ科雑草の草刈り

移植後から出穂 10 日前まで。出穂後は畦畔から本田にカメムシが移動するので控えましょう。

(2)薬剤散布

1回目は穂揃い期(不稔を抑制)、2回目は1回目散布の7～10日後(斑点米を抑制)

但し、イネカメムシが多いほ場や、カメムシの発生量が多くなる中晩生品種のほ場では

1回目は出穂期直後、2回目は1回目散布の2週間後



ホソハリカメムシ

※1回目と2回目は異なる薬剤を使いましょう。

※ニカメイチュウが多いほ場では、両種に効果のある薬剤を選ぶことで同時防除ができます。

(3)早生品種で発生した成虫が、出穂直後の中晩生品種へ移動すると考えられます。

早生品種での適期防除は中晩生品種の被害軽減へ繋がります！

## 大豆

### 確実に！播種後2か月間の雑草防除

○大豆は被覆力が強く、播種後2か月程度で株間を被覆します。そのため、初めの2か月間の雑草防除が重要となります。また、大豆の収量には初期成育が大きく影響します。雑草を抑え大豆の初期成育を確保しましょう！

(1)播種前に雑草が多い場合は、耕起または非選択性除草剤の散布を行いましょう。

(2)播種直後の土壌処理剤散布

・表土の碎土率が低いと、十分な処理層ができず除草効果が大幅に低下します。一度荒く起して土壌を乾燥させた後、再度耕起すると碎土率が高まります。

・大豆の播種直後に処理しまししょう。播種4日後以降の処理では、大豆の生育を阻害する場合があります。

薬剤の多くは、雑草の出芽後は効果が劣るため雑草の出芽前に処理しまししょう。

・極端な乾燥条件では十分な除草効果が発揮されないため、適度な降雨前後に処理日を設定すると効果的です。

(3)中耕・培土

1 回目:本葉が2～3枚の時に子葉まで中耕する。2 回目:本葉が5～6枚の時に培土する。

(4)茎葉処理剤の散布

狭畦栽培(中耕・培土を行わない)の場合や、中耕・培土体系で雑草の取りこぼしが目立つ場合に必要です。

雑草の草丈が大きくなるほど、薬剤の効果は小さくなります。なるべく発生始めに処理しまししょう。



友だち  
募集中

桑名普及センターの LINE 公式アカウントを友だち追加していただくと、毎月あなたのスマホに情報をお届けします！

その他、チャット機能を使ってご質問なども受け付けています

過去の水田たよりは[こちら](#)



桑名普及

検索